

一人一人が節水を

六月一日から水道週間

蛇口をひねれば、好きなだけ水が出る。

そんな便利な生活の中で、わたしたちはとかく水道の水の貴重さを忘れがちです。

しかし、その水をつくり、家庭に運ぶまでには、ばく大な費用と労力がかかっています。ダムの建設、浄水場づくり、消毒用の薬品、導管や配水管の設置、施設の維持、管理……数えあげればキリがありません。

ところが電気やガスとちがって、水の使い方についてはあまり気にしない人が多いようです。

家庭で、学校で、会社で、一人一人の工夫と努力で節約する余地は相当あります。

たとえば、蛇口からポタポタ落

ちるていどの漏水でも、一時間で一リットル、一か月間で普通の浴槽で約四杯分にもなります。これが糸状の漏水になると、一か月でなんと、浴槽二十九杯分にもなってしまう。

日常のちよつとした不注意が、たいへんなムダを生むものですね。六月一日から「水道週間」が始まります。これを機会に、節水の心がけを今いちど新たにしたいものです。

水道の修理は

指定工事店へ

水道管の破損、蛇口の故障など放つておいては節水になりません。こんなときは、すぐに指定の水道工事店に修理を頼みましょう。

市指定の水道工事店

工事店名	所在	電話
荒井興業(有)	匠町	54-1481
(有) 荒井土建	中宮祠	55-0091
宇佐美設備(有)	安川町	54-0602
大久保住宅設備(有)	稲荷町	53-2309
(有) 加藤組	清滝3丁目	54-0432
(有) 関東管財	相生町	53-3265
共和工業(株)	匠町	54-0601
(有) 三共総合設備	御幸町	54-0938
日管設備(株)	匠町	54-0607
日光電気精銅所	清滝	54-0501
(株) 別倉製作所	清滝3丁目	54-3684
(有) 巻島設備	所野広久保	54-1571

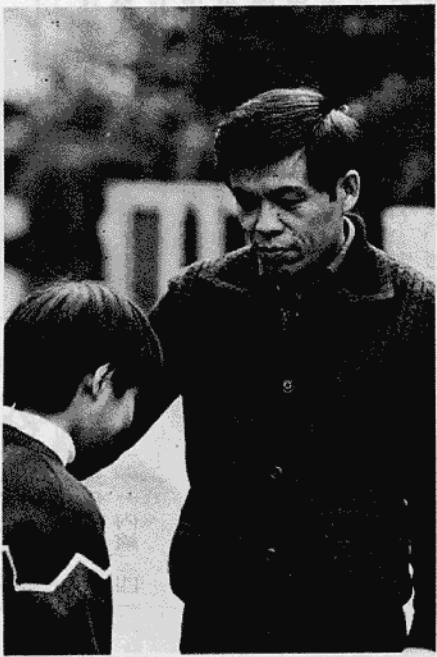


かつてわが国には厳父慈母という言葉がありました。厳しい父親といつくしみ深い母親という意味です。夏目漱石の作品には明治から大正の初めにかけての都市の家庭の雰囲気がよく描写されています。父親は奥の部屋にいて子供たちとはめつたに口をきくこともありません。その威厳のある父親が子供を叱ると、母親がとりなしてくれたり慰めてくれたりしていました。昭和一ケタ生まれの人のなかには、このような父親の姿を記憶していることが多いと思います。

父親の権威

東京都立大学教授
俊 武 摩 詫

しかし最近では甘父干母になつたという人がいます。父親は子供を甘やかすようになり、母親は子供に干渉しがちであるということを示しています。干父甘



母ともいいます。

三十年くらい前の父親たちに比べて、いまの父親たちが優しくなり、子供とよく遊び、子供の世話をよくするようになったという大きな傾向はだれもが認めることです。このようになつた理由にはいろいろなきが考えられます。父親の余暇時間が増え、子供と接触する機会が多くなつたこと、男性と女性の社会的地位が接近したことを背景に、家庭で妻や子供に対して威張っている父親よりも、優しく話し相手になつてくれる父親の方がいいと思われるようになったこと、などが主な理由でしょう。子供に敬遠され、畏怖(いふ)されている父親が少なくなくなりました。父親も子供に嫌われないようにと努めています。

子供にとつて怖い父親よりも優しい父親の方が好ましいのは言うまでもありません。しかし、家庭での教育を考えた場合、父親にはときどき「それは絶対にいけない、認めることはできない」ときつぱりと言い切るだけの権威が必要です。

愛することと甘やかすことを同じと考え、子供に安易に妥協しているのでは家庭教育は崩壊してしまいます。

優しい面と毅然(きぜん)とした面が父親には必要なのです。(東京都立大学教授)